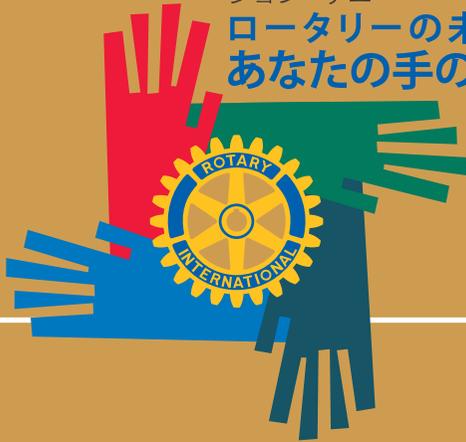


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
情報集会発表
結婚記念日
9月3日 大嶋 孝広
- 次週予定
移動例会／海のふるさと館

No. 2386

第9回 9月2日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	35名
出席率	85.37%

前々会

第6回 8月8日

出席会員	43名
メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

- 9月1日は第3回定例理事会並びに第2回クラブ協議会です。理事・役員、委員長さんの出席をお願いします。
- 国際ソロプチミスト留萌よりビアパーティーの礼状をいただきました。皆様によろしくとの事です。

📬 幹事報告

- 1) 砂川RCより例会変更のお知らせが届いております。

🕒 3分間情報

会員研修委員会 佐藤(潔)委員
「ロータリーの心とかたち」

ロータリーの目的は、社会奉仕と職業奉仕と人間向上に努める自己奉仕の3つの奉仕でありそれらは共助共生の思いやりと感謝の心、最良奉仕の果報（最も奉仕する者、最も多く報いられる）の経済倫理、終身斉家の理念にそれぞれ基づくものである。

そしてロータリーは本質的に一つの人生哲学だと言われるように、その哲学は自己と社会との対比と調和の中で、我を軸として展開しており、「我」にこだわれば、社会奉仕は我利我欲を少し制して我を超えるところの「超私の奉仕」、職業奉仕は最良奉仕の最多果報、先よし我よし両利調和の「被私の奉仕」、人間向上の努力は

もっぱら自己のための「唯私の奉仕」という事ができ、あわせてこれを均整のとれた「三私の奉仕」と名付ければ、ロータリーの目的は三私の奉仕であると言っています。

奉仕の中心は社会奉仕か職業奉仕か、という疑問をよく聞きますが、ロータリーの目的は、各人の人生の関心事の中からロータリーが関与し育成・奨励するのが相応しい、と考えるものを選択し強調したものです。職業分類を原点に持ち、多様な良質の職業人の集まりであるロータリーが生涯教室・人生道場として相互に切磋琢磨するに最適だから目的として取り上げたのです。

親睦は人間向上・研鑽の場を提供し職業倫理の遵守、奉仕の心を育む機会を作りますが、奉仕そのものではありません。個人とその家族の幸不幸か職業の成功不成功に大きく依存すると共に、その職業が個人と社会をつなぐ唯一の太いパイプですから、目的として取り上げる必然性があります。しかし、職業奉仕が他の奉仕団に誇るに足る独自性を持つとしても、極限時においてロータリーから社会奉仕を捨ててもロータリーは残り得ますが、通常時において社会奉仕を除いたら、ロータリーは存続出来ません。両方とも同時に重要な奉仕です。

また、ロータリーの2本柱といわれる奉仕と親睦は車の両輪に例えられますが、それは左右の両輪ではなく、前後の両輪です。ロータリーの目的の奉仕は前輪でハンドルに直結し方向性を与え、親睦は後輪でエンジンに直結し活力を生み出します。奉仕は前引き、親睦は後押し、親睦はロータリーの出発点、奉仕は到着点です。奉仕だけで親睦が無ければロータリーは動きません。親睦だけで奉仕が無ければ、同じ所を回るだけで目的地へ着けません。奉仕とはロータリーの前方にある希望の灯火です。



ニコニコBOX

- どんとう祭りDVD、写真いただきました
ニノ宮エレクト
- 先日お休み致しました
中出幹事
- マージャン大会優勝 私に勝てる人はいない

やはり私に勝てる人はいない 遠藤会員

• マージャン大会準優勝 片目で勝てるが両目では負ける 中川会員

• マージャン大会1位です 鈴木会員

前 回 276,000円

今 回 9,000円

累 計 285,000円



プログラム

「我が生い立ち」

齋藤 敏夫 会員

私は昭和35年3月、札幌にて生まれました。因みに、その11ヶ月後の昭和36年2月に留萌RCが設立されていますので、同時期に誕生した事になります。

私は高校を卒業するまで札幌にて育ち、現在も実家は市内の東札幌にあります。地元の小中学校を経て、高校は札幌東高校へ通いました。小学校6年生の時の昭和47年2月に札幌オリンピックが開催され、オリンピック期間中は学校が休みになり、チケットがとれたスケートを見に行った記憶があります。私自身、スポーツと言えば、小学校は野球。この頃は巨人の星の影響で1年中野球をしていました。中学校・高校そして30代半ばまで夏はサッカー、冬はスキーをやっておりましたが、体力の限界を感じた40代からは安全のため、スポーツ観戦（特にサッカー）が主流となっております。

さて、この頃流れていた音楽と言えば、レコード大賞を例に上げると、高校入学時(昭和50年)は、布施明のシクラメンのかほり、大学入学時(昭和53年)は、ピンクレディーのUFOでありました。しかし、私はどちらかと言うと、当時はフォークやロックを好んで聞いて居りました。

大学は札幌から遠く離れ、東京は神田電機大学へ入学しました。その頃の私は、オーディオやコンピュータに興味があり、専攻は電気工学を選びました。卒業後の就職も当然東京へと考えましたが、研究室の先生の進めもあり、先輩が就職している北電に決めました。昭和57年に北電に入社し、ここからサラリーマン人生がス

スタートしたわけです。振り返れば27年が経ち、人生の半分以上でサラリーマンをやっております。最初の勤務地は旭川で、技術系社員として主に電柱や電線の工事・管理を担当しました。ヘルメットを被り、電柱へ昇ることもありました。転勤はサラリーマンの宿命と言われるが、旭川のあとは留萌・札幌・釧路等と転勤し、今回の留萌への辞令で延べ12回、(引越しは6回)となっております。勤務地は札幌が一番長く、(15年)札幌で、息子と家を持つ事が出来ました。

話は変わりますが、最近では昔に比べ停電はかなり減っており、日本の停電の少なさは世界のトップだそうです。大雑把に言うと、北海道は平均一戸当たり10年に1回、1時間程度停電が発生するという確率です。留萌の特徴としては、カラスの巣に起因する停電が多く、毎年70~80箇所の巣を撤去しております。電柱にカラスの巣を見つけたら、是非北電までご連絡をお願いします。

さて入社以来、技術部門一筋であったが留萌の前は、監査役室という所に居りました。ここは社長を始め全取締役の業務執行をチェックする、社内でも特殊な職場でした。監査役(社内5人、社外3人)の下に各部門から集められたスタッフ(10人)として働いておりました。在任中は、会社法や金融商品取引法等を勉強し、今流行のコンプライアンスや内部統制等の監査を担当しました。残念ながら、北電の20年度決算は会社創立以来の赤字という厳しい状況になりましたが、4月に所長として赴任しロータリークラブの他、商工会議所等、頭に留萌と付く協会協議会には15の団体に所属させて頂き、今に至っております。

最後になりますが、自分の生き立ちを話すという、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。ロータリークラブに入会してまだ5ヶ月ですが、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

佐々木 繁 会員

私は昭和22年6月に男3人兄弟の次男として増毛町別荘オタルマナイで生まれました。父は加工と漁業をやっており、お袋が雑貨店をやっ

ておりました。小さいころはガキ大将で、地域では一番きかなかつたみたいです。勉強が嫌いで小学校の入学式では学校が終わる前に帰ってきてしまい、親が学校中を一生懸命探し回ったことがあったそうです。そういう訳で参観日に親が来るのが苦手で、逃げてあるいていました。

中学校に入学して、将来何になるかを考えましたが、本当は自動車の整備工場でも入ろうかとも考えましたが、何せ勉強が嫌いだった事もあって、漁師が一番手取り早いと思い、父親に「俺は漁師になる」と言うと、父親が船を一艘買ってくれました。それから漁師として生きてきました。

27歳の時船頭になり、イカ釣り一本で南は九州長崎の対馬から稚内まで、1年の仕事で地元にいるのは30~40日位でした。あとは全て船の中での生活で、日本海をあちこち歩きました。漁師として日本中、何処へ行っても酒と女は付きもので、飲み食いにお金も一生懸命使いました。

漁師をやめるきっかけになったのは、前の嫁さんがガンで余命9ヶ月と言われてからで、こんな生活ではどうしようもないと陸に上がる決心をしました。しかし陸に上がって何をやるか見当も付かず、当時函館でイカを生かして販売する活イカを売ろうと、今の遠藤水産の向かいにプレハブを建てて商売を始めました。前の嫁さんは11ヶ月生きて、47歳で死去しました。

子供は息子が2人いるのですが、息子達は東京へ出て行って、北海道は寒いので帰らないと言っています。ただ、お盆には里帰りで帰ってきます。今の女房は前の嫁さんが死んで8ヶ月後に一緒になりました。11歳も若い嫁ですが娘が1人居り、今回結婚するにあたり婿に入れという事で、佐々木の姓を名乗らせて後を継いでもらおうと思っています。

陸に上がって2年、イカを販売していたらお客さんに「どうせならココで生きたイカを食べたい」と言われ、やはり店を持たなければと思い、それが今の商売のきっかけとなりました。マリーナの所で最初の商売をしたが、店が小さく、大きな店を探しました。その頃、越後の館が撤退するとの事で話があり、そこで清宝をや

りました。しかしここでは4月～10月までしか商売が出来ないので留萌に出たいと思い、店を探していたところ福鯨の話があり、留萌にて開業して現在に至ります。

ロータリークラブに入会させていただきましたが、周りを見ると例会にサンダルで来ているのが私だけみたいですので、これからは少し格好にも気を付けて、例会に参加したいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

高橋 理佳会員

昭和34年8月7日午後8時30分、寿町1丁目の旧留萌市立病院で留萌人として生を受けました。その年は、現在の天皇陛下がご成婚され、テレビ普及率が急増した年だそうです。その後札幌で2年半暮らし、昭和39年に留萌に戻って参りました。その時の留萌の印象は、建物も古い木造の家が多かったせいか、黒っぽい町だった印象があります。すぐに聖園幼稚園に入園しましたが、幼稚園の前の坂も砂利道で、舗装されていたのは国道くらいではなかったかと思ひます。

その頃は錦町の旧店舗2階が浜田商事の創業者でもある祖父母の住宅でしたので、寄る事が多かったようです。そしてその頃から、お手伝いとは名ばかりでしたが、売り出しのくじ作りや雑誌の付録はさみ、決して役に立たなかっただろう店番が面白くてたまりませんでした。店舗に出る時はハタキを持っていきなさい!というつも言われていたので、用事もないのにハタキをかけたくて店舗をチョロチョロしていた様な子供でした。

初売りの時には人手が足りなく、いつも抽選の場所の担当で、景品が大きすぎて手渡しすることが出来ず、お客様に取ってもらうというほのぼのとした時代でもありました。その頃のクジの景品は木箱のミカン、一升瓶の醤油、ボックスティッシュなど無い時代のちり紙など、生活に密着していた物ばかりでした。お祭りも本通り両側沿いにびっしり出店され、今でもお祭りの時期になると賑やかな町並みを思い出します。

留萌小学校、港南中学校と進みましたが、そ

の間に両校とも火事に見舞われ、教室も整わない状態で授業を受けた経験もしましたが、不自由ながらも楽しい思い出があります。両親が山岳会に入っていたので、小学校低学年のころは暑寒岳や雨竜沼に何度も連れて行ってもらい、自然を満喫した子供時代でした。

留萌高校では、新聞局に席を置きました。私が入学する2年前から続く、全国1位の座を維持しなければいけないという重圧もありましたが、記憶に残る高校生活でした。卒業後、北海道銀行に入行し退行後は、少しの間留萌を離れましたが、また留萌に戻り、この頃から「留萌の街が好きだなあ」とはっきり感じるようになりました。子供の頃は吹雪の中泣きながら帰った事もありますし、砂利道で転んでいつもケガをしていた記憶もあります。高校くらいになると、不自由な田舎町とを感じる事もありましたが、離れてみて留萌の良さを知ることが出来ました。

現在は娘も独立し、犬4匹に振り回されながら暮らす毎日です。今の職について2年が過ぎました。この業種も男性社会で、色々な会合に出させてもらいましたが、会場内にいる女性は私を含めてせいぜい2名という状況。初めはただ傍観している状態での参加でしたが、女性が珍しいと言う事も手伝ってか名前を覚えていただき、声を掛けていただけたようになった時「せっかく参加させていただいているのにもったいない!」と感じ始めました。確かに、男性ばかりで苦痛な気持ちは大きくありましたが、こんなチャンスはそうもらえるものではありません。

今回ロータリークラブに入会させていただく時もお世辞ではなく「紳士のクラブ、厳肅なる男の集い」のイメージを持っていたので、声を掛けていただいた時には内心驚きを隠せませんでした。ただ「せっかく入会させていただくのだから、一生懸命やろう」として「やるんだら、苦痛と思わず楽しんだほうが絶対身になる」と思っています。知らないことが多すぎて皆様の足手まといになるかもしれません。もう少し辛抱いただいて、勉強させて頂きたいと思ひます。ご清聴ありがとうございます。